



■ビオトープ・サロン 生物多様性保全 ～生物多様性とくしま戦略のその後～

新年あけましておめでとうございます。

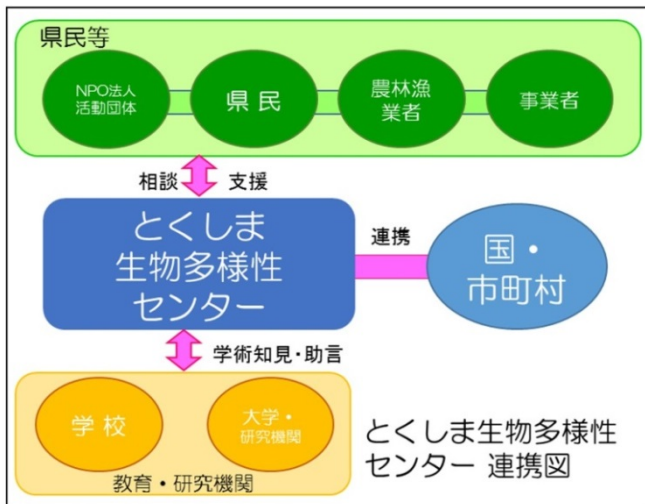
「2020年まであと3年」…という、東京オリンピックをイメージする方が多いのではないのでしょうか？ 2015年に本紙073号で話題にあげた愛知ターゲット、2014年の061号では、徳島生物多様性元年に期待を込めました。あれから3年が過ぎ迎えた2017年、記憶からすっかり遠ざかっていた自らの反省を込めてふりかえり、改めて話題としてとりあげました。今一度考えてみましょう。（編集部）

【[にじゅうまるプロジェクト]と[とくしま生物多様性センター]】

■にじゅうまるプロジェクト（抜粋：<http://bd20.jp/know-nijyumaru/>）

ホームページを見てみると、「にじゅうまるプロジェクトは、市民団体・企業・自治体などが、自分たちのできることで愛知ターゲットへの貢献を宣言(にじゅうまる宣言)し、登録していく仕組み、すなわち、2020年までに、愛知ターゲット達成のための一つのチームを作り上げる事業です。」と解説されています。2016年12月31日現在、登録団体数は287、登録事業数386となっています。この数が多いか少ないかは別として、生物多様性主流化の実現を信じて活動を継続していきましょう！

■とくしま生物多様性センター（抜粋：<http://www.pref.tokushima.jp/docs/2015101700023/>）



2013年10月、徳島県は「人と自然との調和を目指した仕組みづくりの羅針盤」として「生物多様性とくしま戦略」を策定しました。そして、2016年5月23日に、生物多様性保全のための新しい協働のプラットフォームとして【とくしま生物多様性センター】が開設されました。

ホームページによると「とくしま生物多様性センターでは、各主体間の交流や活動に必要な情報の収集・発信、人材の育成・活用を推進することにより、生物多様性に関する諸課題の解決を図ります。」と解説されています。

今後、益々の発展を願い、以下に抜粋して紹介します。ふるって活用し、徳島県の生物多様性戦略の実現に向けて、それぞれの立場から、まずはできることから始めましょう。…そして継続を！

とくしま生物多様性センターの機能

1. 生物多様性に関する情報を収集・発信します。

- ・県内の様々な組織・団体が持つ生物多様性に関する情報を収集し、効率的、効果的に提供していきます。
- ・生物多様性や生態系に係る調査や活動に関する情報を有機的につなぎ、発信することで、より多くの県民の参加協働の機会を増やします。

2. 生物多様性に関するワンストップ窓口として相談等に対応します。

- ・収集した情報を活用して、県民や団体からのお問い合わせにお答えするほか、場合によっては、よりふさわしい相談先をご紹介します。
- ・生物多様性の保全活動などに参加したい県民からの相談に対し、どのような組織・団体がどこで、どのような活動を展開しているかをご紹介します。

3. 協働活動をコーディネートし、多様な主体の参画を拡大します。

- ・生物や生態系の保全活動に取り組む(取り組みたい)企業・農林業者・消費者などの参画を拡大し連携・協働によるネットワーク化をすすめます。
- ・協働に参画する多様な主体がともに発展する関係を構築し、信頼関係に基づく活動を進められるようコーディネートします。

4. 生物多様性に関わる人材を育成し、活動の場をつくります。

- ・生物多様性を持つ意味・価値について、様々な人に伝え、あるいは保護・保全活動を主体的に行う人材を育成します。
- ・育成した人材が「生物多様性リーダー」として活躍する場をつくります。

5. 徳島ならではの生物多様性の魅力を発信し、地域創生を支援します。

- ・徳島の気候風土が育んだ豊かな生態系やそれが作り出す自然景観や文化、産業などの魅力を発信し体験交流・観光誘客等、にぎわいづくりにつなげます。
- ・徳島ならではの生物資源の利活用や、事業者の連携によるその循環利用などを紹介し、生物多様性から生まれる商品の付加価値向上を図ります。

連絡先 電話 088-621-2343
 メール ikimono@mail.pref.tokushima.jp

ビオトープ・サロン お便りコーナー

前号のエコツーリズムについてご意見をいただきました。絵はいくらでも描けると思うのですが、現実には厳しいものがありますね。経済活動や地域活性化につながるほどの運営(経営)ができる「場」「物」「事」「人」これらの付加価値の維持・向上が課題だと思います。「言うは易し、行うは難し。(自立と継続はさらに難し)」これですね。(編集局)

【Dさん】161128

エコツーリズムは、1) 地域振興目的の企画を実施する。2) 観光客がやってきて、地域の当たり前のモノを見て感激する。3) 地元の人が地域の宝に気づく。4) 保全活動につながる。という流れができれば理想だと思うのですが、絵に描いた餅なんではないでしょうか？

■みんなの“たからもの” 空家の利活用と地方創生をつなぐには!?

空家対策は都市も地方も共通の課題となっています。平成26年11月27日に[空家等対策の推進に関する特別措置法]が公布されました。しかし、都市と地方の事情は異なっており、地方、中でも中山間地においては、**限界集落や消滅集落に直結した深刻な問題**でもあります。2010年のCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)を契機として、わが国は「地域の環境が持つポテンシャルに応じた自然資源の持続可能な管理・利用のための共通理念を構築し、世界各地の自然共生社会の実現に活かしていく取組を[**SATOYAMAイニシアティブ**]として、さまざまな国際的な場において推進していきます。」と宣言しました。わが国の里山の自然も文化も共に消えつつある中、**自然共生社会の実現**は如何に。(編集局)



【消えゆく里山の自然と文化：Kさん】2016.12.18

昨年に仕事で中山間地へ出向いた折、限界集落の現実を目の当たりにしました。人家のほとんどが空家、ある集落では、十数軒の集落の最後の1軒の引っ越しにも遭遇しました。山腹に寄り添うように佇む人家、棚田や茶畑、手入れされた斜面農地、なんともどかな里山の風景です。しかし、やがては自然に還っていくのだと思いつつも、自然とともに暮らしてきた文化も景観も消えゆくことに、真の集落再生を願わずにはいられませんでした。

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより **無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【生態学：正答と解説は次号で紹介】

問097：干潟の生態系について述べた文のうち、誤っているのはどれですか

1. 干潟の内部は、酸素の供給が少なく還元状態となっているが、地中深く穿孔して生息するアナジャコ類のような生物も生息する。
2. コメツキガニ、ヤマトオサガニなど、干潟にいるカニ類は、生息条件に違いがないことから、生息条件を満たす箇所では、個体数密度が極めて高くなる。
3. ミヤコドリは二枚貝、チュウシャグシギは甲殻類、チドリ類はゴカイ類というように、種類によって餌の選好度が異なり、それぞれの餌を採りやすい形状の嘴(くちばし)を持っている。
4. イシガレイは、成魚は沿岸から沖合を生息場としているが、仔稚魚は干潟およびその周辺域を生息場としており、イシガレイの生活史のなかで、干潟は重要な位置を占めている。
5. 干潟では、懸濁物質の沈降、凝集などの物理化学的な作用とともに、微生物により有機物を分解したり底生生物が餌として食べたりする生物的な作用により、水質が浄化される。

■前号096(計画部門の記述問題)の解説

比較的身近に生息するものとして、**スズメバチ類**や**チャドクガ**、**イラガ**などの昆虫類、**マムシ**、**ヤマカガシ**などの毒ヘビ、ツツガムシ病を媒介する**ツツガムシ**、ウィルス感染症を媒介する**マダニ**があるほか、触れるとかぶれる**ウルシ**、**ツタウルシ**、**ヌルデ**などの植物も危険生物です。対処方法は、参加者側・主催者側のそれぞれについての留意が必要で、服装の指導、生物の姿かたちを示しつつ**回避方法の指導**、**スタッフの緊急措置法の会得**、**応急措置用品・医薬品の装備**、**病院や参加者の連絡先の整備**等があげられます。

2級はどなたでも受験できます。四国の会場は徳島でしたが、徳島会場は28年度が最後かもしれません。**次年度の受験案内にご注意**ください。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局
【ご意見・お問い合わせはE-mail:kanv@nifty.comへ】 【バックナンバーはURL:<http://biotopetokushima.yu-yake.com>から】